

卒業論文

「なぜ彼らの演説は、人々の心を動かすのか」
—名手の演説家に共通点はあるのか—

指導教官 高橋恭子

早稲田大学政治経済学部経済学科
映像ジャーナリズム・高橋恭子ゼミ

4年 根来真嗣

【概要】

自分は幼少期に見た歴史のドキュメンタリーを通じて、「演説」に興味を持った。なぜ演説の名手たちによって、聴衆は動かされたのか。彼らの演説には何か共通点があったのだろうか。

こうした考えの中、2022年の世界に衝撃的な出来事が起きた。ウクライナ侵攻の激化だ。ロシアによる一方的な戦況になると思われていたが、1年経った現在2023年でも侵攻および戦争は続いている。もちろん欧米諸国からの支援というのも一因にあるだろうが、ここで自分は現在のウクライナ大統領、ヴォロディミル・ゼレンスキーの言動：SNSや演説の発信に注目した。

彼はSNSで演説動画を毎日発信している。また協力国や組織に対してもオンライン会談・演説を通じて支援を求めている。本論文ではこうした言動を元に、過去の演説の名手と言われる者たちとの共通点はあるのかを探し出す。

本論文は5つの章と序章・終章を加えた構成となっている。序章では自分の本論文を執筆するにあたってのきっかけや目的を述べ、第1章ではメディアと共に演説の名手と呼ばれる者たちの史実をまとめた。第2章は戦争の渦中にあるウクライナとヴォロディミル・ゼレンスキー大統領について歴史を交えてまとめ、第3章ではアドルフ・ヒトラーをもとに先行研究を示した。分析手法は川上徹也氏の述べる「ストーリーの黄金律」を用いた。ある3つの要素が含まれたスピーチが、人々の感動を呼び起こすと川上は述べている。第4章では実際にヴォロディミル・ゼレンスキーの演説を対象に分析し、第5章で結果と考察を述べ、終章にて演説の目的と使い方について記述した。

実際過去の歴史の演説家とヴォロディミル・ゼレンスキーとの間に共通点と相違点が見られた。ただこの共通点を用いれば必ず周

りを動かすことができる、とは限らない。また正しく用いられなければ、良き「リーダー」というのが悪しき「独裁者」となりかねない。そこまで踏み込むことはできなかったが、現在のウクライナが善戦している一因を究明できたと考えている。